

わが

全国とつながる、世界とつながる 拠点都市・新潟の実現に向けて

本州日本海側唯一の
政令指定都市

越後平野の中央部、二つの大河、
信濃川と阿賀野川の河口部に位置し、
舟運により古くから川湊かわみなととして発展してきた新潟市は、江戸時代には、人・モノ・文化が交流する



信濃川河口の新潟西港エリア

北前船の主要な寄港地として栄え、函館・横浜・神戸・長崎とともに開港5港の一つに指定された歴史ある「みなとまち」です。

上越新幹線、高速道路網が整備されるなど、高い都市機能を備える一方、海、川、潟などの多様な水辺空間に代表される豊かな自然環境に恵まれるとともに、日本一の水田面積を有する大農業都市でもあります。

平成17年の近隣13市町村との合併により、歴史や文化、自然などの多様な魅力を加え、平成19年には本州日本海側初の政令指定都市に移行しました。

活力ある拠点都市を目指して

この関係を深めてきました。

世界とつながる開港都市としての拠点性を生かし、これまで、「G8労働大臣会合」（平成20年）、「APEC新潟食料安全保障担当大臣会合」（平成22年）、「G7新潟農業大臣会合」（平成28年）を招致し、令和元年5月には、34の国や国際機関の代表団を迎えて、本市がこれまで経験した国際会合の中でも最大規模となる「G20新潟農業大臣会合」が開催され、新潟の文化や食と農の魅力を国内外に発信する機会となりました。

平成31年1月には、新潟港が世界に開かれてから150周年の節目を迎え、これまで築いてきた土台の上に、未来に向かって、全国とつながる、世界とつながる拠点都市を目指し、活力のある新潟市づくりを進めています。

みなとまちを生かした 拠点性の向上

市の中心部にある古町地区ふるまちは花街として栄え、北前船で財を成した商家や料亭、堀割といったみなとまちの歴史・文化を感じられる街並みや景観が残っています。また、訪れる人々を粹な芸でもてなしてきた古町芸妓は、「みなとまち新潟」を代表する文化の一つです。最盛期には300人を超え、京都・祇園、東京・新橋と並ぶ全国



みなとまち文化の華「古町芸妓」



新潟を代表する豪商の別荘として建てられた「旧齋藤家別邸」

屈指の花街の発展を支えてきました。芸妓によって受け継がれているのが日本舞踊市山流^{いちやま}であり、200年近くにわたり地方を拠点に活躍してきた流派は他になく、あてやかな舞が人々を魅了しています。現在は、料亭などで芸妓の舞を鑑賞できるプランのほか、カフェが開設されるなど、芸妓文化に気軽に触れることができます。

港湾管理者である新潟県をはじめ、企業や市民団体などと連携し、オール新潟体制で開港150周年の記念事業やさまざまなプロジェクトに取り組むとともに、日本海沿岸市町村や開港都市との連携、信濃川・阿賀野川でつながりのある県内外の市町村との交流を深めることができました。改めてこれまでの歴史・文化を振り返り、港やまちの素晴らしさと魅力を知ること、港が本市の発展に欠か

せない存在であり、「みなとまち」は共通のアイデンティティであるという認識を深めることができ、これからのまちづくりを考える機会となりました。

今後、拠点都市・新潟が発展していくためには、中心市街地がにぎわい、経済活動が活性化することが重要です。

中心市街地の古町地区は、みなとまち新潟の象徴的なエリアであり、物販中心の商業地として栄えてきましたが、郊外店の出店などにより来街者が減少し、百貨店や商店の閉店が相次ぐなど、厳しい状況が続いています。こうした中、同地区では今春、金融機関や大学、店舗などのほか、市役所の一部が入居する再開発ビルがオープンするとともに、商店街によるアーケードのリニューアルや情報発信施設の開設が進んでいます。

市においても、同地区の将来ビジョンを策定し、多くの関係者と共有しながら、まちなかを活性化していきたいと考えています。

また、県都新潟の玄関口である新潟駅は、現在、在来線の高架化や幹線道路、駅前広場などの整備を進めており、駅周辺のリニュー

アルは、これまで課題となっていた南北市街地の一体化が図られるなど、まちや人の流れを変える大きな契機と捉えています。今後は、令和3年度以降に順次予定している新潟駅全線高架化や駅前広

場の完成などに向けて整備を進め、広域的な交通結節機能の強化を図っていきます。

こうした取り組みを着実に進め、未来に向かって、活力ある新潟市を実現していきます。

プロフィール

◆ 面積 726.46 km²
◆ 人口 78万8053人
◆ 世帯数 34万856世帯

〔将来都市像〕Ⅰ 市民と地域が学び高め合う、安心協働都市
Ⅱ 田園と都市が織りなす、環境健康都市

Ⅲ 日本海拠点の活力を世界とつなぐ、創造交流都市

〔まちの特徴〕港・空港などの高度な都市機能と潟、川、海などの豊かな自然環境に恵まれた、歴史のある「みなとまち」

〔市町村合併〕平成13年1月、黒埼町を編入合併。平成17年3月、近隣12市町村を編入合併（新津市、白根市、豊栄市、小須戸町、横越町、亀田町、岩



新潟市長
中原八一



室村、西川町、味方村、潟東村、月潟村、中之口村）。平成17年10月、巻町を編入合併。

〔特産品〕西洋梨「ル・レクチエ」、いちじ「越後姫」、くろさき茶豆、十全なす、食用菊「かきのもと」、しろねポーク、南蛮えび、チューリップ

〔観光〕新潟市水族館マリニピア日本海、新潟せんべい王国、ピアBandai、萬代橋、旧齋藤家別邸、豪農の館「北方文化博物館」、福島潟、カーブドットワイナリー

〔イベント〕新潟まつり、新潟淡麗にいがた酒の陣、新潟シテイマラソン、白根大風合戦、アート・ミックスジャパン、がたふえす（にいがたアニメ・マンガフェスティバル）

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

本物の魅力に満ちたまち 「ふるさと秦野」へ

みどり豊かな
暮らしよい都市（まち）

秦野市は、神奈川県中央、やや西寄りに位置する人口約16万5千人のまち。四季折々の表情を魅せる丹沢、その麓に広がる里山、そしてそれらが育んだ日本一



どこまでも続く桜のトンネルは、東名高速秦野中井ICを降りてすぐ

おいしい名水が自慢のまちです。

また、豊かな自然に包まれている一方、新宿や横浜から電車で1時間の距離にあり、市内に既にある東名高速道路のインターチェンジのほか、もうすぐ開通する新東名高速道路にも二つのインターチェンジができるなど、首都圏からの交通アクセスにも優れているまちです。

歴史を振り返ると、市の中心部を流れる水無川の流域などで、縄文・弥生時代の遺跡が200カ所近く確認され、桜土手古墳展示館で公開する数々の出土遺物はいにしえの人々の営みを感じさせます。

また、本市東田原地区には、歌人としても知られる鎌倉幕府3代将軍源実朝公の御首塚があり、里山の風景に溶け込んだその境内周辺では、毎年11月、地元市民によ

り実朝公をしのぶ祭りが行われています。

時代は下って、江戸時代。この頃盛んに栽培され始めた葉タバコは「日本三大銘葉」の一つに数えられ、「薩摩のタバコは天候が、水府のタバコは肥料が、そして秦野のタバコは技術が作る」といわれました。今はもう栽培はされていませんが、先人の努力と情熱は、毎年秋、市内最大の祭りとして行われている「秦野たばこ祭」に引き継がれています。

また、本市近隣が「相州」と呼ばれていた明治初期、葉タバコの輪作として栽培されたのが落花生。国内の落花生発祥の地としてその名を冠したブランド「相州落花生」は、国内だけでなく海外にも輸出されました。落花生やサツマイモの掘り取りやイチゴ狩り、

ブルーベリー狩りなどの観光農園は、季節になると多くの観光客でにぎわいます。

丹沢、名水、桜

秦野を訪ねたときに目を引くのは、何と言っても雄大な丹沢の山並みです。都心に近い1500m級の山々に設定された多彩なコースは、日帰り登山はもちろん、山小屋に宿泊しての縦走登山など、初心者から上級者まで楽しむことができます。また、鳥のさえずりを聞きながら湘南の海を眺望できる「弘法山ハイキングコース」や、関東大震災で生まれた自然湖周辺



市民自慢のペットボトル「おいしい秦野の水」



渋沢丘陵と丹沢山塊に囲まれた秦野盆地

を歩く「しんせいこ震生湖ハイキングコース」などは、初心者や体力に自信がない方でも楽しむことができるので、週末は子ども連れや年配の方などのハイカーでにぎわいます。

また、先述の通り、秦野の自慢といえば「名水」。丹沢山塊に降った雨は時間をかけて盆地の地中深くに染み込み、その水量は箱根の芦ノ湖の約1.5倍、約3億と推計されています。豊富で良質な湧水が多く、全国で3番目に近代水道が始まったことや弘法大師由来の故事、条例による保全活動な

どが評価され、昭和60年に全国名水百選に指定されました。さらに平成27年に環境省が実施した「名水百選選抜総選挙」では、「おいしさ」が素晴らしい名水部門で全国第1位となり、名実共に市民自慢の地域資源となっています。

そして、桜。祝いの席に欠かせない「桜湯」に使われる八重桜の出荷量が全国一であることに加え、「はだの桜みち」の愛称で知られる全長6・2kmの桜並木は県内一の長さを誇ります。さらに秦野の桜が多くの人に親しまれるのは、別の理由もあります。それは、早咲きの河津桜に始まり、オカメ桜、春めき桜、しだれ桜、染井吉野、淡墨桜、思川桜、八重桜といった合計約1万2千本の桜が、2月中旬から約2カ月もの間、次から次へと開花し、必ず市内のどこかで違った桜を楽しむことができることです。市内店舗などと一緒に行う「ハダ恋桜キャンペーン」では、桜にちなんだオリジナルメニューをたくさん用意し、期間中多くの観光客をもてなします。

これからの秦野

本年夏のオリンピックでは、ス

ポーツクライミングが初めて正式競技に採用されました。「山岳スポーツの聖地」を目指す本市では、多くの人にクライミング競技を楽しんでもらおうと、今月、ボルダリング施設である「はだの丹沢クライミングパーク」をオープン。隣接する県立山岳スポーツセンターのリード、スピードとともに3種目全てを楽しめる国内でも数少ないスポーツクライミング施設として、県立秦野戸川公園内に整

プロフィール

- ◆ 面積 103・76 km²
- ◆ 人口 16万4832人
- ◆ 世帯数 7万2263世帯

〔将来都市像〕みどり豊かな暮らしやすい都市

〔まちの特徴〕丹沢山塊と渋沢丘陵に囲まれた県内唯一の盆地。穏やかな気候で子育てしやすく、都心へのアクセスに優れたまち



秦野市長
高橋昌和



〔特産品〕落花生、そば、お茶
〔観光〕表丹沢、ヤビツ峠、弘法山公園、田原ふるさと公園、名水はだの富士見の湯、鶴巻温泉、秦野盆地湧水群
〔イベント〕秦野たばこ祭、秦野丹沢まつり、はだの丹沢水無川マラソン、丹沢ポッカ駅伝競争大会、はだの桜まつり

備しました。ここは、令和3年度に開通予定の新東名高速道路に合わせて開設されるスマートインターチェンジにも隣接しています。これを産業振興、観光振興につながる、本市発展の絶好の機会と捉え、交流人口の増加と地域活性化を実現するため、「表丹沢魅力づくり構想」の策定に取り組み、本物の魅力に満ちたまち「ふるさと秦野」を目指します。

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

「住みたい、 をめざして 住み続けたくなるまち」

市全体、自然体、四條畷

四條畷市は、大阪都心までＪＲで約20分という立地でありながら、市内の約3分の2の面積が、国定公園をはじめとした豊かな自然に恵まれた住宅都市です。

住みたい、住み続けたいと思ってもらえるまちづくりの推進を軸に、子育て家庭の支援や質の高い教育の推進、地域産業の活性化に力を入れるとともに、まちと自然、人と人が程よい距離で、のびのびと暮らせるまちとして「市全体」が「自然体」でいられることを示したブランドメッセージ、「しぜんたい、しぜんたい。」を掲げたシティプロモーションを行うなど、まちの魅力創出に向けた取り組みを実施しています。

この結果、平成22年をピークに

減少傾向にあった人口が、平成30年から2年連続で転入超過となり、令和元年は0歳から4歳児の転入超過数が58人と前年比の約2倍、出生数も8.5%増加し、393人となるなど、子育て世帯に選ばれるまちへと変わりつつあります。

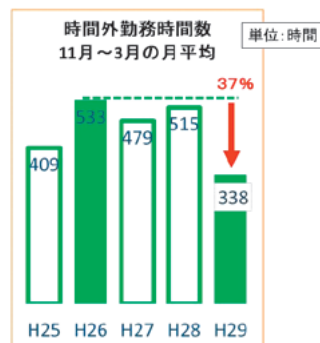
日本一前向きな 市役所の実現

「日本一応募しやすい環境を整えたい」「スマホでピッてできた方が市民は便利はず」。こうした現場の一言から改革が始まっています。

全国自治体で初の取り組みとなった、採用試験でのテレビ電話を使ったWeb面接。子育てや仕事をしている人への応募機会を増やすことを視野に平成30年度から開始し、従前と比べ約10倍（平成

28年度比）もの応募があり、メディアでも大きな反響をいただきました。

また、民間では当たり前になっているWeb手続きを取り入れた住民票のオンライン請求や、LINEによる道路損傷通報システム、公共施設予約システム、子ども見守りサービス導入など、ICT・IoTを使った市民の利便性に資する取り組みを実証実験している最中です。こうした取り組みをより確実なものとするため、令和元年度には「四條畷市ICT・IoT活用指針」を策定し、各課が取り組みたい事業を行財政改革推進本部会議内でプレゼンテーションし、事業決定するフローを確立するなど、やる気と根拠のある事業提案ができる環境を構築しております。



税務課の時間外勤務時間数の推移

また、職員の働き方改革も進めています。セミナーの開催や、指導者養成研修、モデル課による働き方改革の実践を行いました。タスク管理や集中業務時間、忙しさ管理表、カエル会議など、職員が自ら考え実践した結果、税務課では繁忙期の月平均の時間外勤務を約40%削減、子ども政策課では新規事業が増えたにもかかわらず約20%の削減と、取り組みは着実に実を結んでいます。

他にも、技術による改革の一端として、職員が手作業で行っていた保育施設の入所選考にAIを導入し、効果の検証をしています。AIの精度が高まれば、年間

690時間の作業時間の短縮が見込めます。

こうした取り組みが全国から注目され、職員が対応している視察受け入れや講演は、約2年で55件にもなりました。本市は新しい挑戦を受け入れる風土を構築し、前例にとらわれず自らの頭で考え、行動する職員が多くいます。「四條畷市に住んでよかった」。この声を頂くために、職員が一丸となって「日本一前向きな市役所」をめざしています。

子育てチャレンジ

本市を、どこよりも安心して子どもを産み育てられるまちにする



子育て支援の一環として「スマイルベビーギフト」事業を推進

ため、令和元年7月から、妊娠期から小学校入学までの親子の支援を一体的に行う「ネウボラなわて」を予定よりも1年早く開始しました。

その事業の一つとして、生後2カ月の乳児がいる家庭には、保健師や地区の民生委員・児童委員が、公民連携による「スマイルベビーギフト」をお贈りし、悩み相談を行っていきます。男女それぞれに合わせたカラフルなベビー服は大変好評で、訪問時の円滑なコミュニケーションにつながっています。本年度は、これまでの産後ケアのヘルパー派遣制度に加え、宿泊や通所ができる産後ケアの体制を整えていく予定です。こうした取り組みを通じて、さらに安心して子育てができるまちの実現を進めていきます。

市民中心のまちづくり

最後に、まちづくりの主役は市民一人一人との考えから、市政推進の最重要方針として「市民中心のまちづくり」を掲げています。

市の現状を分かりやすく説明し意見交換を行う「地域と市長の対話会」をはじめ、市民のアイデア

をプレゼンしてもらい補助金交付を決める「公募型協働のまちづくり提案事業」の創設、地域課題の解決に取り組む事業者の発掘と育成をめざしたビジネスコンテストの実施など、市民が主体となる地域活性化事業を推進しています。

本年7月に市制施行50周年を迎える本市。市民とともに本市を盛り上げ、市を挙げて「住みたくなる・住み続けたいくなる」まちの実現に取り組んでまいります。

プロフィール

◆ 面積 18・69 km²

◆ 人口 5万5731人

◆ 世帯数 2万4527世帯

〔将来都市像〕市全体、自然体、四條畷。

〔まちの特徴〕大阪都心から電車で約20分の利便性の高さでありながら、豊かな自然に恵まれたまち

〔特産品〕金網、米、味噌



四條畷市長
東 修平



〔観光〕小楠公の楠、四條畷神社、飯盛桜、緑の文化園、室池散策路、室池、権現の滝、霊園の桜

〔イベント〕秋まつり、ビブリオバトル市内こども大会inなわて、市民体育祭、市民文化祭、なわてこどもまつり、農業まつり



ビジネスコンテスト「JAPAN CHALLENGER AWARD in 四條畷」を開催

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

市民一人一人が「豊かさ」を 実感できるまちづくり

自然と歴史が
調和したまち丸亀

丸亀市は、讃岐平野のほぼ中央に位置し、市の中心には美しい円すい形から「讃岐富士」と称され親しまれている飯野山（標高422m）がそびえています。ま



「ダブルダイヤモンド讃岐富士」（飯野山）



本市のシンボルである丸亀城

た、平野部には瀬戸内特有のため池が点在し、穏やかで風光明媚な瀬戸内海には多数の島々が浮かぶ、自然豊かで温暖なまちです。古く江戸時代には、讃岐の国の西部を治める丸亀藩の城下町、また金刀比羅宮（通称「こんぴらさん」）参拝への寄港地として栄えまし

日本一の石垣を復旧する

た。当時の情景を今に伝える丸亀城は、「扇の勾配」と呼ばれる見事な石垣の曲線美と、現存する木造天守が来城者を魅了し、本市のシンボルとして、また市民の憩いの場としても親しまれています。

その丸亀城の石垣が、平成30年の西日本豪雨などの影響により南西部側の一部で崩落いたしました。この石垣崩落に当たっては、市内外から励ましのお言葉やご寄附などの力強いご支援を頂き、現在、本格的な復旧工事に取り掛かっています。

この石垣の復旧過程につきましては、城内に設置しているPR館をはじめ、市のホームページで工事の進捗状況などを発信していますのでぜひご覧ください。

子どもを安心して産み育てられる環境とは

本市では、平成30年3月に「第二次丸亀市総合計画」を策定し、まちの将来像を「豊かでくらしやすいまち 丸亀」と定め、市民の誰もが日々の生活の中で、それぞれの「豊かさ」を実感できるまちづくりを目指しています。

人口減少対策や全国で相次いでいる災害への備えなど市民生活に寄り添い、支えながら、まちの魅力を高める施策に取り組んでいます。

中でも子育てに関しましては、令和元年10月からの幼児教育・保育の無償化に合わせて、市独自に3歳児から5歳児までの、全ての子どもたちの給食費を無償化するなど、各種子育て支援サービスの

充実を図り、安心して子どもを産み育てられる環境づくりに努めています。

女子サッカーの聖地として

スポーツを通じたまちのにぎわいづくりに力を入れており、毎年2月に開催している香川丸亀国際ハーフマラソン大会では、国内外から1万人を超えるランナーが参加し、本市を代表するスポーツイベントとなっています。また、J3所属の「カマタマーレ讃岐」や、独立リーグ四国アイランドリーグplus所属の「香川オ



香川丸亀国際ハーフマラソン大会の様子

リーブガイナーズ」といった、地に根ざしたプロスポーツチームとも連携してホームタウン活動に取り組んでいます。さらには、女子サッカーの聖地といわれる由縁を生かした取り組みとして、企業版ふるさと納税を活用して、交流大会やサッカークリニックなどを開催し、民間事業者とも連携して女子サッカーの普及促進に努めています。

本年は東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会が開催されます。この丸亀の地でもオリンピック聖火リレーやパラリンピック聖火フェスティバルの採



新市庁舎と市民交流活動センターのイメージ図

火式などを開催し、市民の皆さまとともに大会を盛り上げてまいります。

新庁舎とともに新時代へ

本年はいよいよ、「新庁舎」や市民の皆さまが集う「市民交流活動センター」が完成し、本市のまちづくりにとって大きな節目の年を

プロフィール

- ◆ 面積 111.83 km²
- ◆ 人口 11万2880人
- ◆ 世帯数 5万477世帯

〔将来都市像〕豊かで暮らしやすいまち丸亀

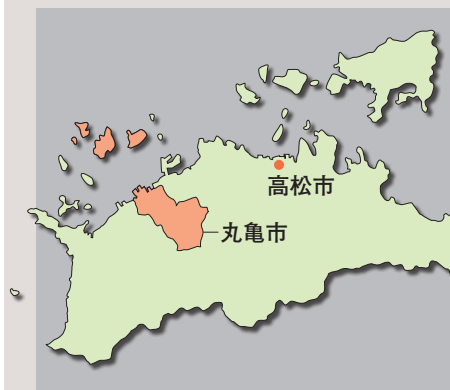
〔まちの特徴〕穏やかな瀬戸内の海とのどかな田園地帯といった、豊かな自然と歴史が調和した田園文化都市

〔市町村合併〕平成17年3月22日、丸亀市、飯山町、綾歌町の対等合併

〔特産品〕丸亀うどん、讃岐うどん、



丸亀市長
梶 正治



骨付鳥、一貫張、青木石、飯南の桃、はっさく、菊、香川本鷹（トウガラシ）
〔観光〕丸亀城、飯野山（讃岐富士）、塩飽諸島、中津万象園、快天山古墳、丸亀市猪熊弦一郎現代美術館
〔イベント〕丸亀お城まつり、まるがめ娑婆羅まつり、あやうたふるさとまつり、香川丸亀国際ハーフマラソン大会

迎えます。令和の新時代とともに、本市は今、まさに未来社会に向かう新たなまちづくりのスタートを切ろうとしています。人口構造の変化や5Gなどの新たな情報技術が、今後の私たちの生活にさまざまな変化をもたらそうとしています。こうした変化を力に変えて、未来につなぐまちづくりを進めてまいります。

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。